



Remote Syslog Collector のインストール

この付録では、Remote Syslog Collector をリモートの Windows または UNIX システムにインストールして、syslog メッセージを処理する方法の概要を示します。

Remote Syslog Collector は、Syslog メッセージをフィルタリングし、LMS サーバ上の Analyzer プロセスに転送します。



警告

LMS 4.1 がすでにインストールされているシステムには、Remote Syslog Collector をインストールしないでください。

Remote Syslog Collector と LMS サーバ上の Syslog Analyzer Service は、SSL ソケットを使用して互いに通信します。

これは、次のように機能します。

1. 起動時に、Remote Syslog Collector は LMS サーバにすでに登録されている Syslog Analyzer を検索し、最新のフィルタ定義を要求します。
 - クエリーを発行したときに Syslog Analyzer が到達不能であった場合、Remote Syslog Collector はすべての EMBLEM 準拠 syslog をフィルタリングし、指定された *downtime file* にロギングします。

Syslog Collector のプロパティ ファイルは次の場所にあります。

- Solaris および Soft Appliance の場合 :

```
/opt/CSCOPx/MDC/tomcat/webapps/rme/WEB-INF/classes/com/cisco/nm/rmeng/csc/data/  
Collector.properties
```

- Windows の場合 :

```
NMSROOT\MDC\tomcat\webapps\rme\WEB-INF\classes\com\cisco\nm\rmeng\csc\data  
\Collector.properties
```

- Syslog Analyzer から最新のフィルタが返された場合、Remote Syslog Collector はフィルタを適用し、syslog を Syslog Analyzer に転送します。
2. Syslog Analyzer は、起動時にすべての登録済み Remote Syslog Collector に接続して、最新のフィルタを伝送しようとします。

Remote Syslog Collector に登録、または Remote Syslog Collector から登録解除するには、メニューから [Admin] > [Collection Settings] > [Syslog] > [Syslog Collector Status] を選択します。

Remote Syslog Collector が LMS 4.1 サーバに接続した後、Remote Syslog Collector のエントリが LMS 4.1 サーバの [Collector Status] ウィンドウに追加されます。

登録済み Syslog Collector のステータスを表示するには、[Admin] > [Collection Settings] > [Syslog] > [Syslog Collector Status] を選択します。

ここでは、RSAC と LMS 4.1 の間で Syslog を設定する方法について説明します。次の内容を取り上げます。

- [Remote Syslog Collector のサーバ要件の確認](#)
- [Remote Syslog Collector のインストール](#)
- [Remote Syslog Collector の停止](#)
- [Remote Syslog Collector のアンインストール](#)

Remote Syslog Collector のサーバ要件の確認

ここでは、Remote Syslog Collector のサーバ要件を示します。

- [表 C-1](#) に、Solaris での Remote Syslog Collector のサーバ要件を示します。
- [表 C-2](#) に、Windows での Remote Syslog Collector のサーバ要件を示します。
- [表 C-3](#) に、Soft Appliance での Remote Syslog Collector のサーバ要件を示します。

表 C-1 Solaris での Remote Syslog Collector のサーバ最小要件

要件のタイプ	最小要件
ハードウェア	UltraSPARC CPU
メモリ (RAM)	<ul style="list-style-type: none"> • 4 GB のメモリおよび 8 GB のスワップ領域
オペレーティング システム	<ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10
ブラウザ (ブラウザが必要になるのは、RSAC のインストール ファイルを LMS 4.1 サーバからダウンロードする場合だけです)	未サポート

表 C-2 Windows での Remote Syslog Collector のサーバ最小要件

要件のタイプ	最小要件
ハードウェア	1 GHz 以上の Pentium プロセッサおよび 1 GB のメモリを搭載した IBM PC 互換システム
メモリ (RAM)	2 GB のメモリ、4 GB のスワップ領域
オペレーティング システム	<p>LMS 4.1 は、次の Windows システムをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Windows 2008 Server Standard Edition (SP1 および SP2) • Windows 2008 Server Enterprise Edition (SP1 および SP2) • Windows 2008 Standard Edition R2 (SP2) • Windows 2008 Enterprise Edition R2 (SP2)
ブラウザ (ブラウザが必要になるのは、Remote Syslog Collector のインストール ファイルを LMS 4.1 サーバからダウンロードする場合だけです)	<ul style="list-style-type: none"> • Internet Explorer 8.x 標準モード (F12 を押して [Standards Mode] を選択) • Firefox 4.0.x および 5.0.x (Windows 用)

表 C-3 Soft Appliance での Remote Syslog Collector のサーバ最小要件

要件のタイプ	最小要件
仮想化システム	<ul style="list-style-type: none"> VMware ESX Server 4.1 VMware ESXi Server 4.1
メモリ (RAM)	4 GB のメモリ、8 GB のスワップ領域。
ハードディスクの空き容量	80 GB
オペレーティングシステム	<p>LMS 4.1 は、次の Windows システムをサポートします。</p> <ul style="list-style-type: none"> Windows 2008 Server Standard Edition (SP1 および SP2) Windows 2008 Server Enterprise Edition (SP1 および SP2) Windows 2008 Standard Edition R2 (SP2) Windows 2008 Enterprise Edition R2 (SP2)
ブラウザ (ブラウザが必要になるのは、Remote Syslog Collector のインストール ファイルを LMS 4.1 サーバからダウンロードする場合だけです)	<ul style="list-style-type: none"> Internet Explorer 8.x 標準モード (F12 を押して [Standards Mode] を選択) Firefox 4.x および 5.x (Windows 用) <p>(注) ブラウザは、32 ビット版 IE および FF のみサポートされています。</p>

サポートされる仮想化システムは、次のとおりです。

- VMware ESX Server 3.0.x
- VMware ESX Server 3.5.x
- VMware ESX 4.0.x
- VMware ESX 4.1
- VMware ESXi 4.0
- Hyper V Virtualization

RSAC 5.1 が連携できるのは LMS 4.1 だけです。

LMS 4.1 DVD で提供される新しい RSAC をインストールする場合は、以前のバージョンの RSAC を事前にアンインストールする必要があります。RSAC 5.1 をインストールするには、[Remote Syslog Collector のインストール](#)を参照してください。

Remote Syslog Collector のインストール

Remote Syslog Collector を両方のプラットフォームにインストールするには、次の手順を実行します。

- [Solaris へのインストール](#)
- [Windows へのインストール](#)
- [Soft Appliance でのインストール](#)

Remote Syslog Collector をインストールするための前提条件は、次のとおりです。

- LMS 4.1 および RSAC 5.1 がインストールされている。
- LMS Service Pack を LMS サーバにインストールする場合は、同じサービス パックを RSAC サーバにインストールする。

LMS Service Pack のバージョンが、LMS サーバと RSAC サーバで同一である。

- Remote Syslog Collector をインストールするサーバには、LMS 4.1 をインストールしない (LMS 4.1 がインストールされている場合は、デフォルトで Syslog Collector がインストールされています)。

この項では次の内容についても説明します。

- [Remote Syslog Collector への登録](#)
- [Remote Syslog Collector の起動](#)
- [Remote Syslog Collector の停止](#)
- [Remote Syslog Collector のアンインストール](#)

Solaris へのインストール

Remote Syslog Collector を Solaris システムにインストールするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 LMS 4.1 DVD をマウントします。

RSAC のインストール ファイルは、LMS 4.1 DVD の RSAC ディレクトリにあります。

ステップ 2 次のコマンドを入力して、インストールを開始します。

```
# cd RSAC
# ./setup.sh
```

ステップ 3 ウィザードの指示に従って製品をインストールします。

Remote Syslog Collector をインストールした後に、[Admin] > [System] > [Software Center] > [Software Update] を選択してインストールを確認します。Remote Syslog Collector が表示されます。

インストール後に、必要に応じて collector.properties ファイルを設定します。設定しない場合は、デフォルトのまま使用できます。[Syslog Collector のプロパティ ファイルについて](#)を参照してください。

Windows へのインストール

Remote Syslog Collector を Windows システムにインストールするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** LMS 4.1 DVD の RSAC フォルダに移動します。
 - ステップ 2** **Setup.exe** ファイルをダブルクリックして、インストールを開始します。
 - ステップ 3** ウィザードの指示に従って製品をインストールします。
- Remote Syslog Collector をインストールした後に、[Admin] > [System] > [Software Center] > [Software Update] を選択してインストールを確認します。Remote Syslog Collector が表示されます。
-

インストール後に、必要に応じて `collector.properties` ファイルを設定します。設定しない場合は、デフォルトのまま使用できます。[Syslog Collector のプロパティ ファイルについて](#)を参照してください。

Soft Appliance でのインストール

Remote Syslog Collector を LMS Soft Appliance システムにインストールするには (OVA ファイル)、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** LMS 4.1 DVD の RSAC フォルダに移動します。Remote_syslog_Collector_5_1.ova ファイルを、OVA イメージを導入する VMware サーバに転送します。
 - ステップ 2** [LMS Soft Appliance のインストール : OVA イメージ](#)の項で説明されている手順に従って、LMS Soft Appliance の OVA ファイルをインストールします。
- Remote Syslog Collector をインストールした後に、[Admin] > [System] > [Software Center] > [Software Update] を選択してインストールを確認します。Remote Syslog Collector が表示されます。
-

Remote Syslog Collector への登録

- ステップ 1** Remote Syslog Collector を実行しているシステムから、ピア証明書をダウンロードします。
- ステップ 2** Remote Syslog Collector を実行しているシステムにピア証明書をアップロードします。
- ステップ 3** [Admin] > [Collection Settings] > [Syslog] > [Syslog Collector Status] を選択します。
[Collector Status] ダイアログボックスが表示され、次の情報が示されます。

カラム	説明
Name	Collector がインストールされているホストの名前または IP アドレス。
Update Time	前回のアップデートの日時。デフォルトでは、このダイアログボックスは 5 分ごとに更新されます。 時刻および時間帯は、LMS サーバのものであります。
Uptime	Syslog Collector の動作期間。
Forwarded	syslog メッセージが転送された回数。
Dropped	未処理の syslog メッセージの数。
Invalid	無効な syslog メッセージの数。
Filtered	フィルタリングされたメッセージの数。フィルタは、[Define Message Filter] オプション（メニューから Admin > Network > Notification and Action Settings > Syslog Message Filters を選択）で定義されています。フィルタの定義の詳細については、『Administration of Cisco Prime LAN Management Solution 4.1』を参照してください。
Received	受信された syslog メッセージの数。
Test Collector Subscription	すでに登録されている、または登録に必要な Syslog Collector をテストする場合にクリックします。
Subscribe	Syslog Collector を登録する場合にクリックします。
Unsubscribe	Syslog Collector を選択し、[Unsubscribe] をクリックすると、Syslog Collector の登録が解除されます。

- ステップ 4** [Subscribe] をクリックします。
[Subscribe Collector] ダイアログボックスが表示されます。
- ステップ 5** 登録先となる Common Syslog Collector のアドレスを入力します。
- ステップ 6** [OK] をクリックします。
指定した Syslog Collector に Syslog Analyzer が登録されます。これは、LMS サーバ上の Syslog Collector またはリモートでインストールされた Syslog Collector のどちらでもかまいません。

Remote Syslog Collector の起動

Remote Syslog Collector を起動するには、Syslog Collector がインストールされているマシンのコマンドプロンプトで、`pdexec SyslogCollector` を入力します。このプロセスはデフォルトで起動します。

Remote Syslog Collector の停止

Remote Syslog Collector を停止するには、Syslog Collector がインストールされているマシンのコマンドプロンプトで、`pdterm SyslogCollector` を入力します。

Remote Syslog Collector のアンインストール

RSAC をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- [Windows](#) でのアンインストール
- [Solaris](#) でのアンインストール
- [Soft Appliance](#) でのアンインストール

Windows でのアンインストール

Windows システム上でアンインストールを実行するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** [Start] > [Programs] > [CiscoWorks] > [Uninstall CiscoWorks] を選択します。
[Uninstallation] ダイアログボックスが表示され、インストール済みのすべてのコンポーネントが表示されます。
- ステップ 2** [Remote Syslog Collector] を選択します。
- ステップ 3** [Next] をクリックして、選択したコンポーネントのアンインストールを開始します。
-

Solaris でのアンインストール

Solaris システム上でアンインストールを実行するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** 次のコマンドをルートとして入力し、アンインストールプログラムを起動します。
- ```
cd /
NMSROOT/bin/uninstall.sh
```
- ステップ 2** アンインストール ウィザードの指示に従います。
- 

### Soft Appliance でのアンインストール

Soft Appliance での Remote Syslog Collector のアンインストールは、サポートされていません。

# Syslog Collector のプロパティ ファイルについて

Syslog Collector をリモート マシンにインストールした後は、Syslog Collector のプロパティ ファイルを参照して、Collector が適切に設定されていることを確認する必要があります。

Syslog Collector のプロパティ ファイルは次の場所にあります。

- Solaris および Soft Appliance の場合 :  
/opt/CSCOpX/MDC/tomcat/webapps/rme/WEB-INF/classes/com/cisco/nm/rmeng/csc/data/Collector.properties
- Windows の場合 :  
NMSROOT\MDC\tomcat\webapps\rme\WEB-INF\classes\com\cisco\nm\rmeng\csc\data\Collector.properties

次の表で、Syslog Collector のプロパティ ファイルについて説明します。

| 時間帯関連のプロパティ   | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| TIMEZONE      | <p>Syslog Collector を実行しているマシンの時間帯。時間帯の適切な短縮形を入力します。たとえば、インドの時間帯は IST です。</p> <p>時間帯の適切な短縮形については、次の場所にある Timezone ファイルを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Solaris および Soft Appliance の場合 :<br/>/opt/CSCOpX/MDC/tomcat/webapps/rme/WEB-INF/classes/com/cisco/nm/rmeng/fcss/data/TimeZone.lst</li> <li>• Windows の場合 :<br/>NMSROOT\MDC\tomcat\webapps\rme\WEB-INF\classes\com\cisco\nm\rmeng\fcss\data\TimeZone.lst</li> </ul>                                                                   |
| COUNTRY_CODE  | <p>Syslog Collector の国番号。</p> <p>適切な国番号を使用して国番号変数を設定し、syslog タイムスタンプの変換が正しく実行されるようにしてください。</p> <p>たとえば、シンガポールの場合は、国番号変数を COUNTRY=SGP に設定します。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| TIMEZONE_FILE | <p>Timezone ファイルのパス。このファイルには、時間帯のオフセットが含まれています。</p> <p>Syslog Collector をインストールした後は、このファイルに適切なオフセットが指定されていることを確認します。オフセットが存在しない場合または正しくない場合は、変換の内容に応じて、時間帯のオフセットを追加できます。</p> <p>デフォルトのパスは、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Solaris および Soft Appliance の場合 :<br/>/opt/CSCOpX/MDC/tomcat/webapps/rme/WEB-INF/classes/com/cisco/nm/rmeng/fcss/data/TimeZone.lst</li> <li>• Windows の場合 :<br/>NMSROOT\MDC\tomcat\webapps\rme\WEB-INF\classes\com\cisco\nm\rmeng\fcss\data\TimeZone.lst</li> </ul> |



| 時間帯関連のプロパティ         | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>標準のプロパティ</b>     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| SYSLOG_FILES        | syslog メッセージの読み取り元となるファイルの名前と場所。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Solaris および Soft Appliance の場合：<br/>/var/log/syslog_info</li> <li>• Windows の場合：<br/>NMSROOT¥log¥syslog.log</li> </ul>                                                                                                                             |
| DEBUG_CATEGORY_NAME | 出力される ERROR メッセージまたは DEBUG メッセージに対して、Syslog Collector が使用する名前。<br>デフォルトのカテゴリ名は SyslogCollector です。<br>このデフォルト値は変更しないことをお勧めします。                                                                                                                                                                                               |
| DEBUG_FILE          | デバッグ情報が含まれている Syslog Collector ログ ファイルの名前と場所。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Solaris および Soft Appliance の場合：<br/>/var/adm/CSCOPx/log/CollectorDebug.log</li> <li>• Windows の場合：<br/>NMSROOT¥log¥CollectorDebug.log</li> </ul>                                                                                      |
| DEBUG_LEVEL         | Syslog Collector を実行するデバッグ レベル。<br>デフォルトの INFO のままにして、情報メッセージが報告されるようにすることをお勧めします。他の値に設定すると、大量のデバッグ メッセージが報告される可能性があります。<br>デバッグ レベルを変更する場合は、Syslog Collector を再起動する必要があります。<br>デバッグ レベルの値は、次のいずれかにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• Warning</li> <li>• Debug</li> <li>• Error</li> <li>• Information</li> </ul> |
| DEBUG_MAX_FILE_SIZE | デバッグ情報が保持されるログ ファイルの最大サイズ。<br>デフォルトでは 5 MB に設定されています。<br>ファイル サイズがここで設定した制限値を超えた場合、DEBUG_MAX_BACKUPS プロパティで指定したバックアップ ファイル数に基づいて、別のファイルに書き込みが行われます。<br>たとえば、バックアップ数に 2 を指定した場合は、現在のログ ファイルに加えて 2 つのバックアップ ファイルが存在します (サイズはそれぞれ 5 MB)。現在のファイルが 5 MB の制限値を超えた場合は、2 つのバックアップ ファイルのうち、古いほうが上書きされます。                              |
| DEBUG_MAX_BACKUPS   | 必要なバックアップ ファイルの数。これらのファイルのサイズは、DEBUG_MAX_FILE_SIZE プロパティで指定した値になります。                                                                                                                                                                                                                                                         |

| 時間帯関連のプロパティ            | 説明                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>その他のプロパティ</b>       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
| READ_INTERVAL_IN_SECS  | Collector が syslog ファイルをポーリングする間隔。<br>デフォルトでは 1 秒に設定されています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| QUEUE_CAPACITY         | syslog メッセージをキューイングするための内部バッファのサイズ。<br>デフォルトでは 100000 に設定されています。                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| PARSER_FILE            | syslog メッセージの解析で使用されるパーサーの一覧が含まれたファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Solaris および Soft Appliance の場合 :<br/>/opt/CSCOpX/MDC/tomcat/webapps/rme/WEB-INF/classes/com/cisco/nm/rmeng/fcss/data/FormatParsers.lst</li> <li>Windows の場合 :<br/>NMSROOT\MDC\tomcat\webapps\rme\WEB-INF\classes\com\cisco\nm\rmeng\fcss\data\FormatParsers.lst</li> </ul>       |
| SUBSCRIPTION_DATA_FILE | Collector に登録されている Syslog Analyzer に関する情報が含まれた、Syslog Collector データ ファイル。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Solaris の場合<br/>/opt/CSCOpX/MDC/tomcat/webapps/rme/WEB-INF/classes/com/cisco/nm/rmeng/csc/data/Subscribers.dat</li> <li>Windows の場合<br/>NMSROOT\MDC\tomcat\webapps\rme\WEB-INF\classes\com\cisco\nm\rmeng\csc\data\Subscribers.dat</li> </ul> |
| FILTER_THREADS         | syslog メッセージのフィルタリング時に操作するスレッドの数。デフォルトでは 1 に設定されています。                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| COLLECTOR_PORT         | Syslog Collector のデフォルト ポート。デフォルトでは 4444 に設定されています。<br>Syslog Analyzer からの登録要求を Collector が受信するポート。                                                                                                                                                                                                                                                            |